観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月１５日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人妙高ツーリズムマネジメント	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	新潟県妙高市	
所在地	新潟県妙高市大字田口３０９番地１	
設立時期	２０１８年４月１日	
事業年度	４月１日から翌年３月３１日までの１年間	
職員数	１４人【常勤１４人（正職員１０人・派遣２人・地域おこし協力隊２人)】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 中嶋　正文 （出身組織名） お宿　ふるや経営	妙高高原温泉郷旅館連合会の会長を務めており、地域の宿泊施設の中心的な存在であり、普段から観光地域づくりの牽引に貢献している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー	（氏名） 馬場　慎太郎「専従」 （出身組織名） 妙高市役所（派遣）	市役所において、企画政策課における総合計画の策定や企業誘致などを経験しており、データ分析やマーケティングを担当しており、消費額調査や宿泊統計調査などの各種データ収集・分析している。また、観光商工課においても、DMO 担当などを歴任し、専門知識が高い。 ２０２１年４月から現職。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 濁川　博「専従」 （出身組織名） 東武トップツアーズ㈱	総務省地域活性化起業人制度により、東武トップツアーズより派遣されており、新潟支店長や金沢支店長を歴任しており、経営の手腕に長けている。
海外プロモーション専門人材（専門人材）	（氏名） 蔡　紋如「専従」 （出身組織名） 元妙高観光推進協議会	２０１８年４月から現職。台湾出身で英語、日本語が堪能。総合旅行業取扱管理者の資格を有し、国内外、特に台湾、香港のプロモーションに高い能力をもっている。
観光専門員（専門人材）	（氏名） 矢沢　正明「専従」 （出身組織名） 元（一社）妙高市観光協会	旅行会社勤務の経験を活かし、２０１３年４月から妙高市観光協会の旅行商品の造成・販売を担当、国内旅行業取扱主任者の資格を有する。 ２０１９年４月から現職。

様式１

連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	新潟県妙高市　観光商工課（観光振興計画・観光施設整備・グリーンツーリズム） 企画政策課（新規事業・ワーケーション・エコモビティ） 財務課（ふるさと納税） 環境生活課（国立公園・地域公共交通） 農　林　課（農産物直売所、農業生産者との調整） 生涯学習課（歴史・文化・スポーツ）
連携する事業者名及び役割	・㈱ホテルロッテ・赤倉観光リゾート＆スパ・アパリゾート上越妙高・Lime Resort Myoko・妙高杉ノ原スキー場・池の平温泉アルペンブリックリゾート・赤倉温泉スキー場・斑尾高原スキー場・東急リゾートタングラム・休暇村妙高・妙高高原ゴルフ倶楽部・妙高カントリークラブ（大型リゾートホテル・ゴルフ場・キャンプ場） ・えちごトキめき鉄道㈱・しなの鉄道㈱・頸南バス㈱・㈱妙高ハブネット・妙高高原タクシー㈱・ＩＭタクシー㈱・新井タクシー㈱（二次交通事業者） ・妙高高原旅館連合会・同女将会（宿泊事業者） ・赤倉温泉観光協会・新赤倉温泉観光協会・池の平温泉観光協会・杉野沢観光協会・妙高温泉観光会・斑尾高原観光協会（地域観光協会） ・新井商工会議所・妙高市商工会（商工業者） ・妙高歴史文化おもてなし隊（文化歴史団体） ・国際自然環境アウトドア専門学校・インフィールド・妙高自然アカデミー・（株）Dancing Snow・Myoko Snowsports・㈱サンピークス妙高（学校、登山・自然・スキーガイド） ・妙高ふるさと振興㈱・（道の駅運営事業者） ・㈲妙高ファーム・㈱ひだなん（農産物直売所） ・君の井酒造㈱・千代の光㈱・鮎正宗㈱（酒造会社等） ・第四北越銀行・新井信用金庫（金融機関） ・(株)上越ケーブルビジョン・上越タイムス（メディア事業者）
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	１．該当する登録要件　【①】 （１）概要 ①観光資源の関係者（香辛料製造会社、道の駅運営事業者、妙高青年会議所)、宿泊事業者（妙高高原温泉郷旅館連合会、リゾートホテル)、交通事業者（バス事業者)、索道事業者（スキー場)、農業関連事業者（直売所)、金融業、商工会、行政が参画しで理事会を構成し法人が事務局を務めている。 （２）登録要件 ①理事会 ・当法人の事業計画や財務内容、補助事業やイベント等の各種取り組みについての意思決定については、（１）①で理事会にて決定される。 ②部会 ・理事会承認より、特定の案件について、部会を設置している。 ③ワーキンググループ ・期間限定や単発のプロジェクトについては、プロジェクトチーム等のワーキンググループを会員から募集し、随時対応している。
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	①　地域向けのワークショップや研修会の開催：５回 ②　事業者向けの講座やワークショップの開催：４回 ③　その他 ・市内学校の総合学習講義や職場体験の受け入れへの協力（６校） ・各種地域団体への協力（妙高文化おもてなし隊など） ・市議会への協力（意見交換会、視察対応など）

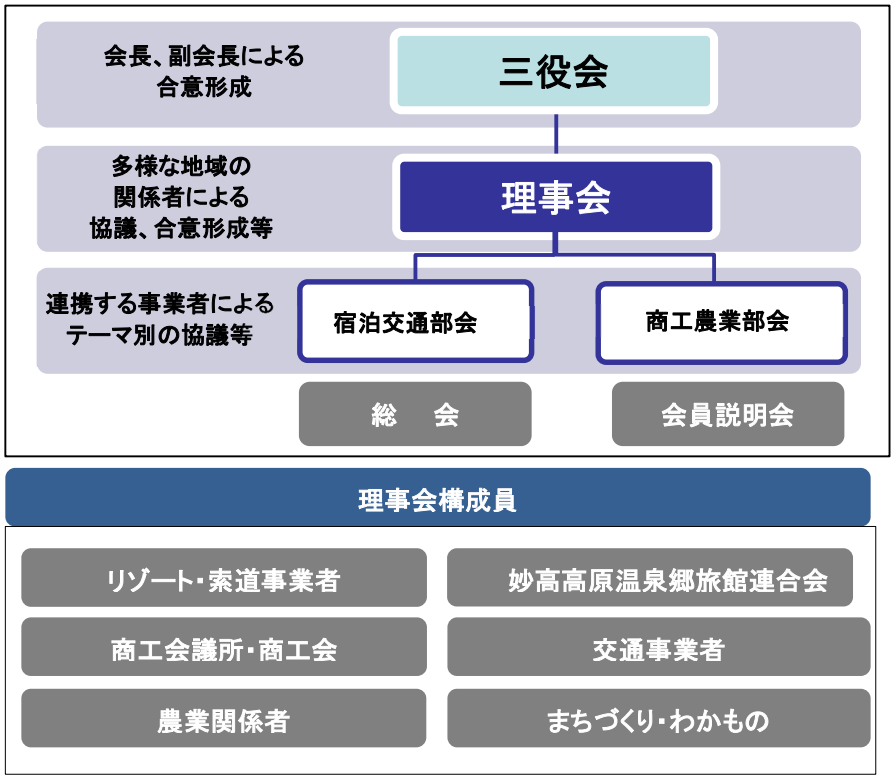
様式１

法人のこれまでの活動実績	（活動の概要）

事業	実施概要
情報発信・プロモーション	･2019 年、2020 年　観光ポスターの作成 春夏秋冬、四季の観光ポスターを作成 ・2019 年　WEB プロモーションの実施 ・2019 年　インバウンド向けウインターガイドブック作成 ・2019 年　台湾向けフリーペーパーの作成 ・2019 年　スキー、農家民泊、登山ツアーの実施 （台湾、香港から年間延べ 2,000 名誘致） ・2020 年　総合パンフレットの作成 ・～2021 年　長野―新潟スノーアライアンスへ参画 （外国人が年間 6 万～7 万人泊） ・～2021 年　スキー客誘客事業 スキーリフト券と宿泊がセットになったお得な旅行商品「妙高メガボックス」を販売 ・2020 年～　妙高温泉列車の旅 えちごトキめき鉄道からイベント列車を貸切、妙高の温泉と食とお酒を楽しむツアー「妙高温泉列車」を実施 ・2020 年、2021 年、2022 年　共同協業販路開拓事業の受託 域内事業者の新たな販路開拓とＰＲを実施。 ・2022 年～　妙高湯めぐりガイドブックを発行 域内の情報発信に加え、市内 30 施設の湯めぐりが楽しめるスタンプラリーを開催中 ・2023 年～　タブロイド判「妙高タイムス」を年 4 回発行
受入環境の整備	・2019 年～　Mt.Myoko（スキー場共通リフト券導入） 主に外国人スキー客向けに妙高高原の 4 つのスキー場の共通リフトシーズン券を導入、Web で販売 ・2019 年　Mt.Myoko シャトルバス運行 主に外国人スキー客向けに妙高高原の 4 つのスキー場を 1 日 10 往復するシャトルバスを運行 ・2019 年　外国人対応観光案所 外国人観光客に対応できる JNTO 認定　カテゴリー2 の妙高高原観光案内所を開設 ・～2021 年　温泉施設の利用促進 温泉施設 20 カ所が利用できる湯めぐりチケットの販売 ・2020 年～　次世代型観光「妙高モデル」事業 感染症対策として医療機関と連携し、独自の安全基準を策定し、安全安心な観光地づくりを展開 ・2022 年～　妙高市テレワーク研修交流施設（MYOKOBASECAMP）を指定管理者として受託 ・2023 年～　市内４つのスキー場に共通 IC ゲートシステムの導入支援
観光資源の磨き上げ	・2020 年　アドベンチャーツーリズムコンテンツ造成事業 ・2020 年、2021 年　スノーリゾート形成促進事業 観光庁の国際競争力の高いスノーリゾート事業の支援を受けて、受入れ環境の整備やグリーンシーズンのコンテンツ造成、情報発信等を実施中 ・2020 年、2021 年　市民ランナー誘客事業 新潟県の支援を受けて、箱根駅伝出場校が練習しているコースを市民ランナー用にコース設定及び環境を整備

		・2021 年　体験コンテンツの発掘・磨き上げ コンテンツ事業者への説明会を開催し、ＯＴＡ販売を増加させた。 ・2021 年　妙高型クアオルトを活用した誘客 観光庁の域内連携磨き上げ事業の支援を受けて、クアオルトプログラムに健康食やアクティビティを組み合わせた高付加価値なプログラムとして、ビューティ＆ヘルシーなモニターツアーを実施 ・2021 年　妙高ワーケーションプラン造成 観光庁の域内連携磨き上げ事業の支援を受けて、観光を楽しみながらリモートワークを行う新しい旅のスタイル。ワークスペースとして利用可能な「ラウンジチケット」がセットになったお得な宿泊プランを造成。 ・2021 年　新たな旅のスタイルモデル事業の実施 クアオルト、ゴルフ、スキーを組み合わせた福利厚生型&ブレジャー型ワーケーションプログラムを実施中 ・2021 年　ご当地グルメの開発（七五三御膳の発売） 妙高高原温泉郷の別名七五三の湯にちなみ７つの料理、5つ以上の妙高産食材、3 つの発酵食”から構成される地産地消のスペシャルなランチ御膳を開発 （11 月 1 日発売開始） ・2021 年　妙高発酵ジェラート開発 妙高の発酵食品を使った５種類のジェラートを開発 （12 月 24 日発売開始以来、8,000 個以上販売） メニュー⇒かんずり、玄米甘酒、コーヒー、味噌 ・2022 年　妙高発酵スイーツ BOX を発売 種類→かんずりシガレット、甘酒パウンドケーキ、コーヒーの琥珀糖、みそガレット ・2023 年　ふるさと納税中間支援の実施 ・2024 年　ご当地グルメ支援として、お山のとまと食堂事務局の受託（28 施設参画）
	（国・県等の補助事業の採択実績）※過去 3 年間 **〇国土交通省（観光庁）** ・国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業（2020 年度～2025 年度） ・地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進事業（2021 年度） ・新たな旅のスタイル促進事業（2021 年度） ・地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業（2022 年度） ・ワーケーション推進事業（2022 年度） ・地域一体となった観光地・観光産業再生の高付加価値事業（2023 年～2024 年） ・北陸信越運輸局による DMO の伴走支援事業（2024 年） ・特別な体験の提供等によるインバウンド消費の 拡大・質向上推進事業（2024 年） **〇経済産業省（中小企業庁）** ・共同協業販路開拓支援事業（2020 年度～2022 年度） **〇環境省** ・国立公園・温泉地等での滞在ツアー・ワーケーション推進事業（2021 年度）	

様式１

	〇新潟県 ・観光消費額向上モデル事業（2020 年度・2021 年度） ・スノーリゾート環境整備（2023 年度） **【定量的な評価】** ・当法人の予算管理、執行管理は、毎月の三役会議及び年 4 回の定例理事会で報告し、チェックを行っている。 ・総会及び会員説明会を開催し、事業説明や会員の意見を聞いている。その他、事業ごとに説明会の開催や会員向けの研修会を実施している。 ・事業計画、進行状況は、妙高市が設置している稼げる観光まちづくり検討委員会（篠原靖委員長）において適宜協議している。（2023 年まで）
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** ・地域連携については、地域関係者（会員）として、商工業者、宿泊事業者、農業法人、交通事業者、索道事業者（スキー場）、飲食店など、多種多様な事業者で構成され、定期な会員訪問などによる意見聴取を行う中で、各事業の執行管理をを図っている。 ・合意形成においては、年１回の総会承認の事業計画に実行するにあたり、定期的に理事会を開催し、情報共有や課題を整理しながら事業を進めている。また、新たな事業などについては、委員会やプロジェクトメンバーにより、随時対応することで、迅速な事業展開を図っている。 ・事務局体制については、事業部、総務部の２部制を敷いており、各種事業を役割分担のもと、円滑な事業執行を図っている。 ・地域住民に対しては、直近においては、感染症対策についての研修会やCOCOA アプリの普及促進などの各種取り組みを行うことで、安全な観光地づくりに向けた意識啓発を進める中で、地域住民の意識醸成を図っている。 ・市内各種団体との連携については、小中学校の総合学習へ協力や市民団体への各種支援を行い、観光をキーワードとして、地域内の連携協力を図っている。 **【実施体制図】** 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

【区域設定の考え方】

・妙高市は、平成 17 年に旧新井市、旧妙高高原町、旧妙高村の 3 市町村が合併して誕生した。分水嶺となっている長野県境に位置する妙高高原エリアから日本海に流れる関川、矢代川の扇状地となっている新井エリアまで広がる市域は、日本海性気候特有の豪雪地帯となっている。

・平成 30 年の DMO 組織設立当初より、当団体は妙高高原エリア・妙高エリア・新井エリアの市域全体を区域としており、各エリアからの会員で構成されている。

・また、エリアの大半が妙高戸隠連山国立公園内に属しており、歴史的にも地域一体が妙高山系の恩恵を受け、形成されている。（農業、産業、歴史文化など）

・観光集客スポットについても、温泉やスキー場、道の駅、スポーツ施設、文化歴史資源などが各エリアに分布している。

【観光客の実態等】

・当エリアは、妙高戸隠連山国立公園の主要部を占めており、グリーンシーズンでは、温泉や自然に親しむ散策、トレッキング、登山、ゴルフなどに訪れる方が多い。また、ウインターシーズンは、9 つのスキー場があり、国内有数のスノーリゾートとして、年間観光客数の 40%近くの割合を占めるお客様がウインタースポーツに訪れる。

様式１

・夏は、標高 1300mの笹ヶ峰高原や標高 800mの赤倉温泉をはじめとする多様な温泉に恵まれ、陸上（駅伝）などのスポーツに適した環境を有しており、大学生を中心としたスポーツ合宿地として利用されている。
・妙高高原温泉郷は、温泉ソムリエ発祥の地で 7 つの温泉地、5 つの泉質、3 つの湯色（無色透明のほか、白、赤、黒）の温泉が湧出し、「七五三の湯」として根強い人気がある。
・上信越道新井スマート IC に「道の駅あらい」は、日本海の鮮魚や新潟・長野のお土産や妙高の食を求め年間、約 278 万の利用がある。
・１０年ほど前からオーストラリアからのスキー観光客が増加したが、コロナ過によりゼロベースとなったが、コロナが明けた 2024 年では、過去最高の年間約 13 万人泊超の外国人が訪れている。
・外国人観光客の増加に合わせ当エリアの観光消費額については、スノーシーズンを中心に増加傾向となり、2024 年は 248 億円まで増加した。
・今年度は、国民の行動制限が緩和されたこともあり、観光地に客足が戻りつつあり、当地における観光入込客数は約 523 万人（R6 年１月～12 月、妙高市調べ）対前年比 102%となり、冬季のスキー場利用者数は 53 万人となり、雪不足の影響から前年比 83%となった。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

・温　泉：７つの温泉地、５つの泉質、３つの湯色の「七五三の湯」
【活用方法：湯めぐりチケットの販売、七五三の湯に併せたご当地グルメ開発等】
・スキー場：ロングコースの「妙高杉ノ原スキー場」やパウダースノーの聖地「アライマウンテンリゾート」を入れて 9 か所
【活用方法：共通リフト券「MtMYOKO 共通リフト券」の販売等】
・ゴルフ場：「赤倉観光リゾートゴルフコース」など多種多様なコースが 4 か所。
【活用方法：ふるさと納税共通ゴルフチケットの発行】
・登　山：妙高戸隠連山国立公園内にあり、「妙高山」・「火打山」・「高妻山」の百名山が三座。
【活用方法：指定管理施設を受託している高谷池ヒュッテの運営及び利用促進】
・滝　：日本の滝百選に選ばれている「苗名滝」と「惣滝」のほか、市内に多くの滝が存在。
【活用方法：各種ツアーにおける立ち寄りスポットや紅葉などの情報発信コンテンツとして活用】
・森林セラピーロード：いもり池や笹ヶ峰高原など 6 か所が認定。
【活用方法：ツアー及びアクティビティとして妙高型クアオルトプログラムの提供による健康×自然資源を組み合わせたヘルスツーリズムの推進】
・イベント：日本屈指のトレイルランニングレースや「信越五岳トレイルランニングレース」や春の訪れを告げる「艸原祭（そうげんさい）」等の 2000 人以上の大規模イベントへの支援。
【活用方法：各種イベント開催による宿泊及び滞在時間の延長を促進】
・商業施設：年間約 278 万人の立ち寄り客がある「道の駅あらい」・「四季彩館みょうこう」や、妙高山麓の高原野菜が揃う「直売センターとまと」やなど。
【活用方法：窓口案内や情報発信による市内観光スポットの PR】
・歴史・文化：上杉謙信が信仰した「関山神社」や国の指定遺跡の「斐太遺跡群」、
岡倉天心終焉の地「赤倉温泉」にある「天心六角堂」など
【活用方法：上記の文化資源を一体的に盛り上げるために設立された市民団体「妙高おもてなし隊」との連携による、現地視察及び意見交換、ツアー商品の企画造成等】
・発酵食：日本有数の豪雪地域として知られる妙高地域には、かんずりや日本酒、みそなど風土と先人の知恵に育まれた発酵文化がある。
【活用方法：発酵食を活用した事業や商品開発を進めている。（妙高七五三御膳、妙高発酵ジェラート、妙高発酵スイーツ BOX、妙高ととのうカレールゥ、グルメイベント「お山のとまと食堂」支援など）

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

様式１

（R7.3 月末現在の当法人会員施設数）

地区名	施設数	部屋数	収容力	収容力 100 人以上の施設
妙高高原温泉郷	99	1,508	4,747	
赤倉温泉	29	536	1,676	ホテル太閤、赤倉ホテル、対山、香嶽楼
新赤倉温泉	20	251	651	赤倉観光ホテル
池の平温泉	16	268	973	Lime Resort Myoko、ｱﾙﾍﾟﾝﾌﾞﾘｯｸ
杉野沢温泉	20	218	790	
妙高温泉	1	20	80	
関温泉	8	138	342	休暇村妙高
燕温泉	5	77	235	
桶海	1	226	460	アパリゾート上越妙高
斑尾高原	4	43	117	
新井	4	279	760	ホテルロッテアライリゾート
合計	108	2,056	6,084	10施設

【利便性：区域までの交通、域内交通】

首都圏より

鉄　道：北陸新幹線「上越妙高駅」より「えちごトキめき鉄道」で妙高高原駅下車、約 2 時間 40 分。

車　　：上信越自動車道「妙高高原 IC」まで約 3 時間 30 分

関西圏より

鉄　道：特急サンダーバードで金沢から北陸新幹線「上越妙高駅」より「えちごトキめき鉄道」妙高高原駅下車、約 4 時間 10 分

車　　：名神自動車道から北陸道、上信越道「妙高高原 IC」まで約 5 時間 50 分

域内交通

鉄　道：　えちごトキめき鉄道はねうまライン（上越妙高駅～新井駅、関山駅、妙高高原駅）

バ　ス：妙高山麓周遊バス（桶海～関～燕～赤倉～新赤倉～池の平～杉野沢～苗名滝）
登山バス（妙高高原駅～笹ヶ峰）
妙高市営路線バス（関・燕温泉、赤倉・新赤倉温泉、妙高・池の平・杉野沢など）

【外国人観光客への対応】

・日本語ＨＰとは別に、英語版専用ＨＰ、中国語（繁体字）のＨＰをそれぞれオリジナル版として運営。
・妙高高原観光案内所及び道の駅あらいくびき野情報館案内所は、ＪＮＴＯカテゴリー2 に認定（英語を話せるスタッフを常駐）
・観光案内所や温泉街等に公共フリーWi-Fi の設置。
・会員向けに外国人観光客の受入れ研修会の開催。
・スキー場間をつなぐ Mt.Myoko シャトルバスの運行。
・ウインタースポーツを楽しむ外国人向けに無料の英語版ガイドブックの発行。（施設マップ、レストランガイド、バスルート＆時刻、スキー場情報）
・外国人向けの地元ツアー会社やスキー学校との連携。
・当団体にインバウンド専門員 1 名を設置。
・インバウンド向けプログラムの開発及び情報発信。

・㈱リクルート連携によるキャッシュレスシステムの普及促進（Air シリーズ）
・インバウンド向けタクシー予約システムの構築
・市内観光名所の看板に多言語化 QR コードの設置

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	妙高市内の観光関連事業者における観光消費額及び域内循環額を把握し、ＤＭＯの経営戦略に活用する。	㈱リクルートに委託し、市内観光関連事業者を対象にアンケート調査（WEB＆ハガキ）をし、回収、分析。
延べ宿泊者数	妙高市内の宿泊施設利用者の月別、国別データを収集し、ＤＭＯの経営戦略に活用する。	㈱リクルートに委託し、市内観光関連事業者を対象にアンケート調査（WEB＆ハガキ）をし、回収、分析。
来訪者満足度	妙高市内に宿泊した観光客の満足度を調査し、経営戦略に活用する。	新潟県の満足度調査及び日帰り観光客向けアンケートにより把握する。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	新潟県のリピーター率調査を参考にして算出。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や情報発信の効果等を把握するため	妙高観光ナビ及び外国語対応 HP（DMO が運営する HP）のアクセス状況を把握する。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	妙高市が総合計画策定時に実施するデータを活用する。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

１．地域の現状
〇現状１：本地域は、自然や温泉などの地域資源を活用したスキーやアウトドア・スポーツを中心とした観光振興を推進してきたが、コロナ禍が終了し、冬季観光は一定の復活の兆しはあるものの、特にグリーンシーズンを中心に国内外から地域内への人の流れが減少傾向となっている。
〇現状 2：令和 3 年度より、㈱リクルートや妙高市からの出向者を迎え、事業計画の見直しを図り、ご当地グルメや地域産品の開発（妙高七五三御膳、お山のとまと食堂、妙高発酵ジェラート、発酵スイーツ、米粉カレールゥなど）、温泉を活用した湯めぐりスタンプラリー付きのガイドブック作成など）に加え、指定管理施設の受託やふるさと納税返礼品の充実、など、人材と自主財源の確保を図っている。
〇現状 3：シンガポール資本による大型リゾート開発が計画されている中で、観光庁補助事業を活用して既存宿泊施設の高付加価値化や観光 DX の推進を図っている。

２．地域の課題
〇課題１：四季を通じた観光誘客の推進
・冬季の入込客数は確保できているものの、グリーンシーズンの入込客数が伸び悩んでいるため、妙高ならではの国立公園の自然環境や温泉などの観光資源を活用した各種ツーリズム事業の展開により、国内誘客の強化及び外国人観光客の誘客拡大に向けた、四季を通して観光客を呼び込むための戦略が必要である。

〇課題２：効果的な観光情報の発信

・若い世代や外国人観光客を中心として、観光地で観光情報を直接入手する機会や、ＳＮＳ等を活用し、自ら観光地情報を発信する機会が増えていることから、旅行者の情報発信の機会を高める取り組みを進めていく必要がある。

○課題３：観光客受入体制の充実

・観光客の満足度向上を目指すには、宿泊施設や地域内飲食店などにおける施設整備や料理や接客などのサービス水準をより高め、高付加価値化していく必要がある。

○課題４：交流人口から関係人口の拡大に向けた受皿づくり

・働き方改革の一環として、テレワークやワーケーションを導入する企業が増えてきており、本地域への新たな人の流れを創出するため、ワーケーション事業に取り組むことで魅力を高め関係人口の拡大を図る必要がある。

○課題５：インバウンド観光の復活

・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、年々爆発的に増加傾向であったインバウンドの受け入れが皆無となったが、with コロナ・After コロナにおける新たなインバウンド対応として、地域内の受け入れ体制の整備は急務となっている。

○課題６：国際的なスノーリゾートとしての地域の磨き上げ

・本地域のパウダースノーは、外国人から高い評価を得ているが、キャッシュレス対応や多言語対応の遅れ、リフト・ゴンドラ等施設の老朽化など、スノーリゾートとしての課題が顕在化しており、民間事業者などとの連携により、上質なスキー場施設の整備や多言語対応、街なかの環境整備などを推進し、世界水準の滞在型観光地づくりに取り組む必要がある。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・妙高山麓に広がる雄大な自然環境** **・妙高高原温泉郷（七五三の温泉地）** **・多種多様な９つのスキー場** **・安全安心な地場食材と郷土食** **・国指定の史跡など歴史文化資源**	**弱み（Weaknesses）** **・知名度不足（情報発信の不足）** **・ご当地グルメ提供やカフェ等の飲食店の不足** **・体験コンテンツ及びアクティビティ提供事業者の不足** **・地域内事業者連携の希薄や人材不足** **・コロナ禍の影響で宿泊施設の廃業などによる域内の受け入れ宿泊者数の減少**
外部環境	**機会（Opportunity）** **・交通インフラの整備（北陸新幹線、上信越自動車など）** **・外資系企業の進出（ロッテアライリゾート、ライムリゾート妙高、シンガポール資本によるリゾート開発など）** **・移住者の増加（若手経営者など）**	**脅威（Threat）** **・地域の高齢化やリゾート開発などによる外国人による不動産取得の増加** **・自然災害（大雪、暖冬小雪など）**

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）

（３）ターゲット

○第１ターゲット層

国　内：首都圏、近隣県（新潟県を含む）、関西圏　※属性の設定は行わない。

国　外：オーストラリア（ウインターシーズン）香港、台湾、中国を中心としたアジア圏（通年）

○選定の理由

国　内：妙高市における観光入込客数調査の傾向によると、首都圏及び近隣県、関西圏からの入り込みが７割を占める。また、特にコロナ禍によりマイクロツーリズムの推進が一定の効果が見られたことから、特に県内を含む近隣県の誘客にも力を入れていく。

※属性の設定を行わない理由としては、当地域については、高級リゾートホテルから季節民宿まで、様々な形態の宿泊施設が約 200 施設点在することから、属性の設定は行わず、各種各取り組みによりターゲットを変えていくものとする。

国　外：オーストラリア人を中心とした不動産投資が進んでおり、加えて、シンガポール資本によるリゾート開発が計画されているため、今後の長期的な特需が見込まれるため。
また、アジア圏については、各国のスキーブームなど市場拡大によるウインターシーズンの観光誘客に加え、知名度の向上やアクティビティの充実によるグリーンシーズンの誘客強化を図る。

※上記について、認知度が低いことや情報の発信が不足していることから、観光マーティングや顧客情報の一元化、情報発信の強化、インバウンド専門員の設置などを進めていく。

○取組方針

①観光マーケティングの実践

・戦略的に事業を取組む為に必要なデータを収集し、分析・考察を行い、効果的な仮説を立て事業を推進する。
・定期的に事業に対する振返りを行い、PDCA を回しながら事業結果にコミットしていく。

②観光 DX

・観光事業者の生産性を高めていく為に、宿泊データ及び消費額データ等の一元化を検討して行く。また、デジタルデータの取得分析により、域内の宿泊者数やスキー場入込客の需要予測の可視化やキャッシュレス化の推進や予約システムの導入、シフト管理の効率化などにより、観光事業者の事業運営の最適化を図る。

③SNS 等を活用した観光情報の発信

・会員情報や妙高市の観光情報を定期的に SNS で発信する。
・妙高ファンを獲得していくと同時に、地域の魅力を PR して「行きたい、買いたい、食べたい、泊まりたい」という顧客ニーズを創出する。
・インバウンド誘客の強化を図るため、多言語対応及びターゲット国のニーズに合わせた情報発信を行う。

④インバウンド専門員の設置

・当団体にインバウンド専門員１名を設置し、アジアを中心とした誘客促進を図る。
・また、専属でイギリス人のＷＥＢデザイナーを抱えており、欧米圏に向けた情報発信や英語版情報冊子の作成を行う。

様式１

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	妙高山の恵みのもと、雪とともに暮らす、愛のあふれる、ふるさと妙高で、世界に誇れる観光地域づくりを進め、持続可能な観光の実現を図る。
②コンセプトの考え方	○妙高市は、第３次妙高市総合計画の基本施策である「世界に誇れる観光地域づくり」の実践に向けた実施計画として、「第３次妙高市観光振興計画」に基づき、具体的な観光地域づくりを推進している。 ○観光振興計画においては、基本方針として、観光地域づくりの実践を掲げており、その内容については、当団体が中心となり、推進していくこととされている。 ○上記を踏まえて、「妙高山」「雪」「水」「温泉」「スキー」「歴史文化」「郷土食」など多様な地域資源を有しており、豊かな地域資源を地域企業や団体、市民（人材）が多様な連携をし、磨き上げを行うことにより、世界に誇れる観光地づくりを下記のとおり進める。 ①　四季を通じて妙高の魅力を感じてもらい、一年を通じて観光客が訪ねてみたい「国際観光地・妙高」をつくる。 ②「妙高高原温泉郷」の多種多様な温泉「七・五・三の湯」を今以上にアピールする。 ②　雪がもたらす「恵み」を、地場産品として磨き上げ、ふるさと納税や販売強化を図ることで、地域の魅力を広く知ってもらう。 ④妙高山岳信仰や国指定の関山神社「宝造院」など、地域に残る歴史的資源を活用し、観光客だけでなく地元住民にも歴史的遺産に触れ合ってもらう。また、 ⑤国内観光客や外国人観光客に、満足いただけるコンテンツを充実させ、満足度を高めることで、リピーター層を形成する。 ⑥多種多様な事業者が域内連携を強化し、地域全体で観光客を「おもてなし」できる地域を形成していく。

【域内連携イメージ】

様式１

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	①稼げる観光まちづくり検討委員会 ・概要：妙高市及び当法人の観光戦略への提言組織（年 4 回の会議） ・構成員：委員長　篠原靖（跡見学園女子大学准教授） ② 株式会社リクルート　じゃらんリサーチセンター （年 5 回打合せ及び情報交換、現地意見交換） ・概要：各種事業への支援及び連携、包括連携協定の締結（R3.12.1） ・構成員：沢登次彦（センター長）、木島達也、荒本香桜子 ③ 青山社中株式会社（毎月 1 回打合せ） ・概要：販路拡大・誘客支援等における各種連携 ・構成員：代表　朝比奈一郎　※妙高市アドバイザー ④ ご当地グルメ開発ワーキンググループ（全 3 回実施） ・概要：ご当地グルメ「お山のとまと食堂」の開発にあたり、ワーキングチームにより、定義等の内容を検討し決定 ・構成員：阿部敦史（ブランドプロデューサー）、旅館女将、カフェ経営者、農家、WEB デザイナー、クリエーター、フォトグラファーなど
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	①着地型旅行商品の造成 ・概要：妙高の自然や温泉、食などの地域資源を組合わせた体験プログラムを造成し、魅力ある着地型旅行商品として磨き上げ、販売を促進させる。 ・具体的な取組：各種着地型旅行商品の造成販売 ②地域の観光資源を活用した魅力発信（七五三の湯の PR 含む） ・概要：特色ある温泉を活かした情報発信を実施し、七五三の湯を効果的に PR していき、エリア認知度を高める。 ・具体的な取組：七五三の湯を有効活用したスタンプラリーの実施 ③体験型コンテンツの発掘・磨き上げ（高付加価値体験含む） ・概要：滞在時間の延長を第一の目的に、地域資源を活用した体験コンテンツの造成（造成済コンテンツの整理）し、販売を行う。 ・具体的な取組：コンテンツ造成支援及び販売支援 ④クアオルトを活用した誘客 ・概要：自然資源や温泉を活用した妙高型クアオルト（健康保養地プログラム)」について、ターゲット設定を行った上で効果的なアプローチを行い、新たなニーズを創出する。 ※現在は市民向けプログラムとなっているが、魅力を活用し、県内外からの誘客を行う。 ・具体的な取組：ビューティ&ヘルシーやワーケーションなど、テーマを絞った中で、高付加価値化プログラム造成に向けた磨き上げ ⑤ワーケーションを活用した誘客 ・概要：「都心から離れた場所、妙高市で働きたいと思う環境」を整え、妙高市を自らの意志でワーケーションの地に選ぶ場所、ワーケーションの聖地となるような仕掛けを整える。 ・具体的な取組：妙高市テレワーク研修交流施設の指定管理受託による各種事業の実施

	⑥地場産品の活用促進 ・概要：地元で採れる食材や、地元で造られている商品等を活用し、妙高でしか食せない料理や、名物となる商品を、地域事業者の皆様と一緒に企画・開発して行く。 ・具体的な取組：妙高七五三御膳や発酵ジェラートの販売、発酵スイーツの企画・販売、妙高ととのうカレールゥの企画・販売 ⑦ふるさと納税の企画運営 ・概要：妙高市のふるさと納税の寄付額向上を図るため、参画事業者の参画の増加に向けた支援を行う。 ・具体的な取組：事業者支援により、参画事業者や返礼品の増加を図っている。 ⑧地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業（観光庁事業）※R5 年度～R6 年度 ・概要：域内の観光施設（宿泊、飲食店等）と連携し、改修や面的 DX などの受入れ環境を整備することで、地域全体の高付加価値を図ることで消費額向上につなげる。 ・具体的な取組：参画施設 30 施設、域内工事費 24 億にて工事中 ⑨スノーエリア環境整備事業（新潟県・妙高市事業）※R5 年度 ・概要：妙高スノーリゾートエリアに共通の IC リフトゲートシステムを整備し、共通化によるインバウンド対応やマーケティングデータの収集を図る。 ・具体的な取組：新潟県と妙高市の支援を受けて、DMO が中心となり、エリア 6 つのスキー場をまとめ、IC ゲートシステムの整備を行った。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	①顧客情報の一元化 ・概要：観光事業者の生産性を高めていく為に、データの一元化を検討していきます。また、デジタルデータの取得と自在な活用を通して、より魅力的で価値ある旅行体験を具現化し、観光ビジネスをさらに発展させる取り組みを検討する。 ・具体的な取組：既存 HP 及び SNS などの様々な媒体の一元化による効率的な情報発信強化 ②SNS 等を活用した観光情報の発信 ・概要：会員情報や妙高市の観光情報を定期的に SNS で発信する。 妙高ファンを獲得していくと同時に、地域の魅力を PR して「行きたい、買いたい、食べたい、泊まりたい」という顧客ニーズを創出する。 インバウンド誘客の強化を図るため、多言語対応及びターゲット国のニーズに合わせた情報発信を行う。 ・具体的な取組：Facebook、インスタグラム、TIKTOK など、目的に合わせた情報発信を実施（公式アカウント 12 ジャンル所有） ③ 持続的な地域商材販路開拓支援事業 ・概要：妙高市事業者連携により、持続的な販売促進を向上させる。 ・具体的な取組：地域内事業者と連携・協働による EC サイトによる物販の強化（R4 年度に DMO 独自の EC サイト構築） ④ 観光 DX（観光庁・妙高市事業）※R4 年度～R6 年度 ・概要：観光事業者の生産性を高めていく為に、宿泊データ及び消費額データ等の一元化を検討して行く。 ・具体的な取組：デジタルデータの取得分析により、域内の宿泊者数やスキー場入込客の需要予測の可視化やキャッシュレス

	化の推進や予約システムの導入、シフト管理の効率化などにより、観光事業者の事業運営の最適化を図る。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	13,900	15,300	17,500	25,000	25,500	26,000
		（－）	（－）	（－）	（－）	（－）	（－）
	実績	18,038	17,310	24,819			
		（－）	（－）	（－）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	437	480	950	1,000	1,050	1,100
		(50)	(70)	(130)	(150)	(200)	(250)
	実績	474	919	861			
		(42)	(131)	(104)			
●来訪者満足度（%）	目標	90	90	93	93	93	93
		（－）	（－）	（－）	（－）	（－）	（－）
	実績	96.3	92.9	92.9			
		（－）	（－）	（－）			
●リピーター率（%）	目標	65	65	65	65	65	65
		（－）	（－）	（－）	（－）	（－）	（－）
	実績	62	61.7	61.7			
		（－）	（－）	（　）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

様式１

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

事務局部課長会議にて、素案を整理し、会長副会長会議に提案し決定する。基本的な考え方としては、新型コロナウイルス感染症収束後の影響における観光需要を勘案し、前年度実績を見極めたうえで、妙高市観光振興計画及び DMO 事業計画、新潟県の観光及び経済動向等を勘案して決定。

新潟県の観光及び経済動向等を勘案して決定。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

観光需要を勘案し、前年度実績を見極めたうえで、妙高市観光振興計画及び DMO 事業計画、新潟県の観光及び経済動向等を勘案して決定。

●延べ宿泊者数

前年度実績を見極めたうえで、妙高市観光振興計画及び DMO 事業計画、新潟県の観光及び経済動向等を勘案して決定。

●来訪者満足度

前年度実績を見極めたうえで、妙高市観光振興計画及び DMO 事業計画、新潟県の観光及び経済動向等を勘案して決定。

●リピーター率

前年度実績を見極めたうえで、妙高市観光振興計画及び DMO 事業計画、新潟県の観光及び経済動向等を勘案して決定。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
○WEB サイトのアクセス状況（人）	目標	160,000	160,000	160,000	290,000	290,000	290,000
		(50,000)	(50,000)	(50,000)	(85,000)	(85,000)	(85,000)
	実績	176,126	122,877	282,700			
		(37,459)	(46,590)	(81,950)			
○住民満足度（%）	目標	未調査	50	50	50	50	50
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	未調査	25	31.5			
		(－)	(－)	(－)			
○体験コンテンツ発掘磨き上げ（OTA 販売数）	目標	10	12	12	15	15	15
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	10	12	12			
		(－)	(－)	(－)			
○地場産品の活用促進（ご当地グルメ参画店舗数）	目標	10	12	30	40	50	60
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	10	10	38			
		(－)	(－)	(－)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

様式１

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

・各年度の事業計画の目標項目及び目標値については、理事会において内容を精査し、総会での承認を経て設定している。
・目標項目の設定については、観光事業者向けアンケート調査結果などを踏まえて、取り組みが必要な項目を設定している。
・目標値の設定については、それぞれの項目の現状を把握した上で取組み内容に合わせて、目標値を設定している。

【設定にあたっての考え方】

●WEB サイトのアクセス状況（人）：日本語版と英語版ともに Google Analytics による数値を利用
●住民満足度（%）：妙高ツーリズムマネジメントによる年１回の独自調査結果による。
●体験コンテンツの発掘・磨き上げ（OTA 販売数）：リクルートとの連携による妙高ツーリズムマネジメントが掲載支援をしている「じゃらん遊び体験」における妙高市域におけるコンテンツの販売数
●地場産品の活用促進（ご当地グルメ参画店舗数）：妙高七五三御膳及びお山のとまと食堂への参画店舗数の合計値

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	１６１，５８５，４９６	**【国・県・市からの補助金】４２，４８９，４７０** **【公物管理受託】２３，４０４，１３０** **【委託料収入】３０，３９２，５７０** **【収益事業】５７，５４４，３３６** **【会費】４，９４９，０００** 【その他】２，８０５，９９０
2023（Ｒ５） 年度	２２７，７９３，６９０	**【国・県・市からの補助金】６１，５０８，４８９** **【公物管理受託】２８，６６８，１５４** **【委託料収入】２０，５１３，４７９** **【収益事業】１０８，８６１，４０９** **【会費】４，８０９，０００** 【その他】３，４３３，１５９
2024（Ｒ６） 年度	３０７，１０８，０１２	**【国・県・市からの補助金】９２，６７１，１４７** **【公物管理受託】３０，１０７，３９０** **【委託料】　１８，１６５，６８２** **【収益事業】　１４２，６６５，８９９** **【会費】　４，６７９，０００** **【その他】　１８，８１８，８９４**
2025（Ｒ７） 年度	２１０，３９１，３３０	**【国・県・市からの補助金】２６，８８９，０００** **【公物管理受託】３４，８７９，１３０** **【委託料】　１２，８６６，０００** **【収益事業】　１２８，３５７，２００** **【会費】　５，０００，０００** **【その他】　２，４００，０００**
2026（Ｒ８） 年度	２２０，０００，０００	**【国・県・市からの補助金】３０，０００，０００** **【公物管理受託】３２，０００，０００** **【委託料】　２１，０００，０００** **【収益事業】　１３０，０００，０００** **【会費】　５，０００，０００** **【その他】　２，０００，０００**
2027（Ｒ９） 年度	２２０，０００，０００	**【国・県・市からの補助金】３０，０００，０００** **【公物管理受託】３２，０００，０００** **【委託料】　２１，０００，０００** **【収益事業】　１３０，０００，０００** **【会費】　５，０００，０００** **【その他】　２，０００，０００**

様式１

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	１４７，７１６，６１４	【一般管理費】３，４５６，３５６ 【事業費】１４４，２６０，２５８ ・指定管理事業：７０，７６７，６４２ ・受託事業：２３，６９４，６４３ ・市補助事業：２９，８４２，６３６ ・自主事業等：１４，５２２，１３７ ・租税公課：５，４３３，２００
2023（Ｒ５） 年度	２２５，５１２，３２３	【一般管理費】５，７０９，０８６ 【事業費】２１９，８０３，２３７ ・指定管理事業：７５，７８６，０９６ ・受託事業：１７，６７４，９７８ ・市補助事業：６６，８１３，７４８ ・自主事業等：５７，０６８，５７３ ・租税公課：２，４５９，８４２
2024（Ｒ６） 年度	３０７，３１５，１６９	【一般管理費】５，２９３，７１３ 【事業費】３０２，０２１，４５６ ・指定管理事業：７９，３６７，５９８ ・受託事業：１２，７７３，３６０ ・市補助事業：６８，７２８，６７６ ・その他補助事業：４１，４００，８１７ ・自主事業等：９８，８８１，３０６ ・租税公課：８６９，６９９
2025（Ｒ７） 年度	２１０，１９１，３３０	【一般管理費】５，０００，０００ 【事業費】２０５，１９１，３３０ ・指定管理事業：７８，３８６，３３０ ・受託事業：１２，３８６，０００ ・市補助事業：３１，９５９，０００ ・自主事業等：８０，６６０，０００ ・租税公課：１，８００，０００
2025（Ｒ８） 年度	２１９，０００，０００	【一般管理費】５，０００，０００ 【事業費】２１４，０００，０００ ・指定管理事業：７８，０００，０００ ・受託事業：２０，０００，０００ ・市補助事業：３０，０００，０００ ・自主事業等：８５，０００，０００ ・租税公課：１，０００，０００
2026（Ｒ９） 年度	２１９，０００，０００	【一般管理費】５，０００，０００ 【事業費】２１４，０００，０００ ・指定管理事業：７８，０００，０００ ・受託事業：２０，０００，０００ ・市補助事業：３０，０００，０００ ・自主事業等：８５，０００，０００ ・租税公課：１，０００，０００

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

・運営資金の確保に向けて、下記の方針により取り組みを進めていく。
【方　針】
・地域の消費額の向上を図るとともに、地域資源や当団体の会員との連携強化を図りながら、持続可能に向けた自主財源の確保を図っていく。

【取り組み】
① 着地型旅行商品の造成･販売等のツアー商品の造成・販売（企画料&手数料）
・概要：信越５岳トレイルランニングレースの配宿や各種ツアー商品を企画し、販売促進を図る。
（Ｒ６年度：信越５岳トレイルランニングレースの配宿業務※約 2800 人泊）
② ご当地グルメの開発
・概要：妙高七五三御膳やお山のとまと食堂を支援する中で地域消費額を向上させている。
（合計３７店舗参画）
⑤ お土産の開発
・概要：妙高発酵ジェラート及びスイーツ BOX（4 種類）を企画開発し販売促進を図っている。
（妙高産のかんずり、赤みそ、玄米甘酒、ＭＹＯＫＯコーヒー）※R3 年から延べ 8,600 個販売
④ＥＣサイト（オリジナル物販）
・概要：地域の商品を組み合わせ販売や期間限定商品を地域産品のＥＣサイトを立ち上げ販売する。（令和 4 年 3 月～）
⑤指定管理施設の高谷池ヒュッテ
・概要：日本百名山の火打山にある市営高谷池ヒュッテについては、当団体が指定管理者として、指定を受けており、食事や物販などのサービスを向上させ、売り上げの増加を図る。
R4 年度より、モンベルの EC 宿泊予約システムを活用し、予約の利便性の向上と業務効率の向上を図っている。※R6：売上 5000 万円（宿泊 3900 万円、販売 1100 万円）
⑥ 物販の強化
・概要：妙高高原観光案内所を中心として、お土産品の充実やアウトドア商品（妙高山麓モンベルコーナー）の販売などを検討し、物販の強化を行っている。
地域内４つのスキー場を滑れる「Mt.MYOKO 共通リフト券」を販売しており、インバウンド需要を受けて、年々販売の増加を図っている。
※R6 売上：6000 万円
⑦ふるさと納税支援事業
・概要：DMO として、ふるさと納税の返礼品の品目を増加させるとともに、地域の魅力を発信しながら、自主財源の確保を図る。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

・一般社団法人妙高ツーリズムマネジメントは、多種多様な事業者を巻き込み、観光地域づくりの舵取り役として、会員の意見を聞き地域に寄り添いながら、データに基づく戦略的な施策を実施し、誘客、地域の消費額向上を図っている。
・R3 年度までは、コロナ感染症対策と経済活動の両立を図るため、コロナ禍における経済対策として、当市からの補助金による各種宿泊キャンペーンの実施や国・県からの各種補助金を獲得し、地域内連携を強化する中で、観光地域づくりに率先して取り組んできた。
・R4 年度は妙高市テレワーク研修交流施設やふるさと納税企画運営などの新規事業を受託し、観光分野だけでなく、企画や財務、環境などの幅広い担当課と連携した取り組みを進めている。
・R5 年度は、観光庁の高付加価値化事業において地域採択を受けて、宿泊施設中心に施設改修を進めるとともに、国際競争力の高いスノーリゾート形成事業の採択により、観光ゴンドラの改修など、地域全体の観光消費額の増加に向けた活動に寄与している。また、当市が㈱リクルートと連携

して進めている観光ＤＸの推進についても、域内へのキャッシュレスの普及促進や各種データの取得・分析により、より質の高い観光施策を実践している。
・上記のことから、当市としては、今後の観光戦略を進める上で無くてはならない団体であることから、一般社団法人妙高ツーリズムマネジメントを妙高市における地域ＤＭＯとして認め、引き続き連携して観光地域づくりの推進するため、ともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

・エリアが重複する地域連携観光地域づくり法人の（一社）信州いいやま観光局とは、妙高市及び当団体も構成団体として参画しており、定期的な会議や意見交換を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

・妙高市内の有数の観光地の一つである斑尾高原については、妙高市域と隣接する飯山市域が入り組んだ地域となっている。また、北陸新幹線の開業により、斑尾高原は飯山駅から最も近い観光地として、大きな魅力となっている。
・一方、妙高高原温泉郷については、北陸新幹線の上越妙高駅及び妙高高原駅（えちごトキめき鉄道及びしなの鉄道）が最寄り駅となっており、市内観光地の最寄り駅の分散化が生じている。
・上記を踏まえ、妙高市及び当団体としては、飯山駅を中心とした斑尾高原の観光振興のため、地域連携 DMO の（一社）信州いいやま観光局に構成員として参画している。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

・役割分担については、それぞれの事業目的により随時連携を図っている。
・斑尾高原エリアについては、飯山市域と妙高市域が入り組んでおり、最寄り駅も飯山駅となるため、プロモーションによる広域的な特性から、飯山駅における情報発信や観光案内については、地域連携ＤＭＯである（一社）信州いいやま観光局に任せており、飯山駅観光案内所とは定期的な観光情報の意見交換やパンフレットの送付などを行っている。
・当団体が販売している妙高発酵ジェラートや妙高ととのうルゥなどの地域産品を飯山駅の観光案内所やカフェで販売をしてもらっている。
・地域連携 DMO の（一社）信州いいやま観光局と具体的な連携事業としては、広域のサイクリングルート設定における連携については、当団体の事務局機能がある妙高高原観光案内所、妙高市テレワーク研修交流施設がサイクルステーションとなり、市内の道の駅などの施設紹介を行うことで、各種連携支援を行っている。
・各種アウトドアイベント（信越五岳トレイルランニングレース、SEA TO SUMMIT など）などでの相互連携を図っているほか、当団体のアウトドアイベント等においては、一時的に不足する自転車やカヌーなどの備品を（一社）信州いいやま観光局より、安価で賃借することや、それぞれが主催するイベントへの相互協力や相互参加などにより、密な連携を図っている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

・連携については、DMO 登録制度の創設前より、2000 人以上の参加者がある日本 3 大トレイルランニングレースの一つである「100 マイル信越五岳トレイルランニングレース」や「信越ロングライド」、「斑尾 JAZZ フェスティバル」など、数々のイベントなどで相互連携してきた歴史がある。

・また、地域内においても、斑尾高原観光協会については、妙高市域と飯山市域が入り混じる会員組織により、斑尾高原の活性化に向けた各種活動を続けており、行政並びに市民活動においても、効率的かつ効果的な観光誘客活動の遂行に向けた連携が期待できる。

・斑尾高原マウンテンリゾートの敷地の半分は妙高市域であるためことやタングラムスキーサーカスは当団体の賛助会員であることから、共通リフト券の販売や観光誘客のプロモーションなど、各種分野で連携を強化している。

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	馬場　慎太郎
担当部署名（役職）	一般社団法人　妙高ツーリズムマネジメント
郵便番号	９４９－２１０６
所在地	新潟県妙高市大字田口３０９－１
電話番号（直通）	０２５５－８６－２４１２
ＦＡＸ番号	０２５５－８６－３４５０
Ｅ－ｍａｉｌ	shintarou.baba@myokotm.com

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	新潟県・妙高市
担当者氏名	牛木　優二
担当部署名（役職）	観光商工課（主査）
郵便番号	９４４－８６８６
所在地	新潟県妙高市栄町５－１
電話番号（直通）	０２５５－７４－００２１
ＦＡＸ番号	０２５５－７３－８２０６
Ｅ－ｍａｉｌ	yuji_ushiki@city.myoko.niigata.jp

都道府県･市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	

（登録）【地域DMO】 一般社団法人　妙高ツーリズムマネジメント

様式２

記入日：　令和7年7月15日

基礎情報

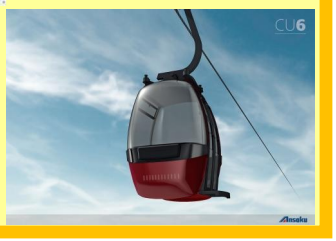
【区域】:新潟県妙高市
【設立時期】:2018年4月1日
【設立経緯】:③区域の観光協会が解散し、DMOに移行
【代表者】 :中嶋　正文（会長）
【マーケティング責任者（CMO）】:　馬場　慎太郎（市役所より出向）
【財務責任者（CFO）】:　濁川　博（事務局長）
【職員数】14人（常勤9人（正職員10人・派遣2人・地域おこし協力隊2名）
【主な収入】
　収益事業　307百万円（補助金92百万円、指定管理30百万円、
　　委託料18百万円、収益事業142百万円他）※R6決算
【総支出】
　事業費　306百万円（管理費5百万円、指定管理79百万円、
　　受託12百万円、補助金109百万円、自主98百万円他）
　　※R6決算
【連携する主な事業者】
宿泊事業者、索道・リゾート事業者、商工事業者、交通事業者、農業事業者、地域づくり関係者、金融機関など

KPI（実績・目標）

指標項目		2022（R４）年度	2023（R５）年度	2024（R６）年度	2025（R７）年度	2026（R８）年度	2027（R９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	13,900（－）	15,300（－）	17,500（－）	25,000（－）	25,500（－）	26,000（－）
	実績	18,038（－）	17,310（－）	24,819（－）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	437（50）	480（70）	950（130）	1,000（150）	1,050（200）	1,100（250）
	実績	474（42）	919（131）	861（104）			
●来訪者満足度（%）	目標	90（－）	90（－）	93（－）	93（－）	93（－）	93（－）
	実績	96.3（－）	92.9（－）	92.9（－）			
●リピーター率（%）	目標	65（－）	65（－）	65（－）	65（－）	65（－）	65（－）
	実績	62（－）	61.7（－）	61.7（－）			

戦略

【主なターゲット】
○国　内:首都圏、近隣県（新潟県を含む）、関西圏
○国　外:オーストラリア（ウインターシーズン）
　　台湾、香港、中国等のアジア圏（通年）
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
①観光マーケティングの実践
②顧客情報の一元化（観光DXの推進）
③SNS等を活用した観光情報の発信
④インバウンド専門員の設置
【観光地域づくりのコンセプト】
　妙高山の恵みのもと、雪とともに暮らす、愛のあふれる、ふるさと妙高で、世界に誇れる観光地域づくりを進め、持続可能な観光の実現を図る。

具体的な取組

【地域の観光資源を活用した魅力発信
・七五三の湯を有効活用した湯めぐりスタンプラリーの実施
【地場産品の活用促進】
・妙高七五三御膳やお山のとまと食堂の企画・販売
　発酵ジェラートや発酵スイーツの企画・販売
　ととのうカレールゥの企画・販売
【スノーリゾート推進事業】
・妙高エリア4つのスキー場に共通ICゲートシステムの運用
・赤倉観光リゾートスキー場のゴンドラ搬器更新
　（観光庁：国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業）
【観光DXの推進】
・DMO独自のOTA予約システム及びアンケートシステムの構築